

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	「我が家より、我が家らしい居場所となるように」という理念の基、町内会・近隣住民の方々とのお付き合いを重要視して、常にご近所に対しては、挨拶・日常会話など積極的に働きかけるように努めています。		
2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	ホーム内に運営理念を掲示して、常に意識できる環境を作っています。		
3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	運営推進会議等で、ホームの理念について理解して頂けるように努めています。		
2. 地域との支えあい			
4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	玄関サイドにベンチやブランコなど、気軽に立ち寄って遊んだり、休んで頂けるように努めています。花などを飾って、よりくつろいで頂ける環境作りに努めています。また、散歩の時などはお庭を見せて頂いたり、お話などをさせて頂いています。		
5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に加入し、町内や連合町内の行事や清掃等に積極的に参加して交流を深められる様に努めています。また、毎年、手稲区で開催されている「ふれあいフェスティバル」に実行委員として参加し、福祉を通して地域との関わりを深めています。		行事等に参加した時、町内会の方々と入居者とが多く会話ができるような場面を作るように努めます。
6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議では、町内会長・連合町内会長を通して、福祉・介護に関する情報を出来る限り提供するように努めています。また、主治医にも参加して頂き医療に関する情報も出来る限り提供するように努めています。「ふれあいフェスティバル」において、地域の高齢者の方やご家族の方が理解を深めて頂けるように、施設見学・説明会を実施しています。		主治医との連携により、手稲区のグループホーム管理者会議での講師をして頂いています。地域での役割について、今後ホーム内で検討していきように努めます。今後も「ふれあいフェスティバル」の実行委員として参加し、地域に貢献していきます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己評価、外部評価について、全体会議等で職員に周知するとともに、個人面談を行いながら実施しなければならない事項について取り組んでいる。</p>	<p>定例会議等にて、改善すべき点など職員からの意見を取り入れる機会を設けています。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議にて、それまでの行事、状況などの報告を常に行い、包括、町内会、ご家族等からの意見を広く取り入れるように努めています。</p>	<p>少しでも、多くのご家族様に参加して頂くように働きかけるとともに、会議にてホームに対しての理解を深めて頂き、屈託のないご意見を頂けるように努めます。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>電話による確認や訪問等により、細かいことに関しても連携が取れています。生活保護、成年後見人制度の導入などについての相談や手続きの支援をしています。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>講習会等には積極的に参加しており、成年後見人制度を導入されている、又はされようとしている入居者さまの支援をしています。</p>	
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>常に研修会には積極的に参加し、職員へのフィードバックをしっかりとおこなっています。職員相互でも一つ一つにおいて虐待に該当するのではと、常に気に掛けています。</p>	<p>管理者及び職員は、研修後のフィードバックを確実に言い、意識を高め虐待の防止に努めます。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>ご家族に対して、十分な説明をして、入所時及び退所時にも安心して頂けるように努めています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	居間に利用者・ご家族用の苦情用紙を設置して、いつでも不満や苦情を管理者や職員へ表せるようにしています。		一人ずつ居室を訪問して、意見、不満、苦情等本音を聞くことが出来る場を設けて行きます。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	入居者個々のご家族に対して、つきに一度日常の写真や1ヶ月のメニューを添えてお手紙で近況をお知らせしています。また、必要に応じてなるべく密にご家族と電話連絡等でご報告しています。年に4回の予定で「いちわ通信」を発行して、職員の紹介等を行っています。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情受け付け窓口をお知らせするとともに、運営推進会議で札幌市や外部者に対して意見や苦情を表せる機会を設けています。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月2回開催の会議で職員の意見を聞き、取り入れられるものは取り入れています。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	柔軟な対応が出来るように、出来る範囲での調整に努めています。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	個人面談等を行い、職員個々が自己啓発出来る様に支援し、異動や離職をなるべくなくす様に努めています。また、代わる場合は利用者の精神状態を優先的に考慮しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>外部研修には積極的に参加するように働きかけています。また、毎月研修会を事業所内で開催して、介護知識の習得に努めています。さらに、日常必要に応じてOJTを行い、職員の知識・技術が向上するように努めています。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>運営者が一同に会する場では、積極的に他者とのコミュニケーションを取り、つながりを 広げるように努めています。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>職員がゆっくりとくつろげるように、休憩室を離れた場所に設置しています。</p>	<p>ストレス軽減のために、定期的に個人面談を行います。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>個人面談により職員の啓発を促すとともに、実績・勤務状況により能力手当を支給し、 職員のモチベーションを高揚させています。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入所前に十分時間を取り、本人様やご家族からお話を聴いて、入所後も安心して生活していただけるように努めています。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入所前に十分時間を取り、本人様やご家族からお話を聴いて、入所後も安心して生活していただけるように努めています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時には、細かいところまでお聞きして、状況等を十分に把握して支援していただけるようにしています。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご家族と十分に相談をして、本人様が安心して頂けるように努めます。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	日常生活の中で、掃除・洗濯・調理など一緒に作業を行うことで、教えて頂いたり支えたり出来る環境を作っています。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	情報の共有に努め、ご家族と一緒に考え、ご家族の支えになり、一緒に本人様を支えていく関係を築くように努めています。		全てのご家族に、そのような関係が築かれてはいないので、お一人でも多くのご家族と関係を築けるように努めます。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご家族に面会の機会を勧めて、本人様とご家族が疎遠にならないように支援しています。		ご家族にクリスマス会などの行事への参加の案内をして、会う為の機会を増やしていくように努めます。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	本人様やご家族のご希望があるときは、対応しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	カンファレンス等で、話し合いながら、深く関わりあえるように支援しています。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約終了時、退所後の行き先への対応、または不安な点などがあつた場合には電話による相談等も対応しています。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ICFを使用して、アセスメントを行い把握している。困難な場合はカンファレンス等で検討をしています。		現状を踏まえて、その人らしい生活が送れるように、アセスメントをしっかり行い、カンファレンス等で検討をしていきます。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ICFを使用して、アセスメントを行い把握している。困難な場合はカンファレンス等で検討をしています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	ICFを使用して、アセスメントを行い把握している。困難な場合はカンファレンス等で検討をしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご家族等の意見、ご本人の意向を取り入れ、カンファレンスで話し合い、介護計画の作成を行っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	毎月1回評価・検討を行い、3ヶ月単位でご家族の意見、ご本人の意向を取り入れ、必要に応じた計画の変更を行っています。		見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、随時ご家族様、ご本人、職員等で話し合い計画を変更していきます。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日常的に細かいデータを取り、そのデータに基づいたものを介護計画に反映するように努めています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	地域の行事への参加、買い物、食事など入居者様の要望に合わせて、柔軟に対応し支援しています。また、町内会、医療機関や地域包括支援センターと連携を取って、多目的に支援しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	区の図書館等を利用するなど、地域資源の活用に努めています。また、町内会並びに運営推進会議を通じて町内会の行事などの情報を得て、活用できるように努めています。		本年度も、町内会の行事等に積極的に参加する機会を設け、入居者様が地域の方と交流できる機会を多く持てるように努めます。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	「ふれあいフェスティバル」や運営推進会議を通して、地域の他ケアマネジャーやサービス事業者との連携をとり、入居者様の支援をするように努めています。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	「ふれあいフェスティバル」や運営推進会議を通して、手稲区地域包括支援センターとの連携をとり、入居者様の支援ができるように努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員を配置しており、日常の健康管理、協力医療機関との連携等を図っています。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	主治医に認知症の相談・診療等も受けられます。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	職員として看護師を配置しており、日常の健康管理や医療活用の支援をしています。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院したときには、病院関係者及びご家族との情報交換を密にするように努めています。また、必要に応じて病院で開催のカンファレンスにも参加しています。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入所時に当ホームの方針を説明しています。入所中に状態が変化(悪化)した場合は、その都度、家族に連絡をして相談し、病院と連携を取ります。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化した場合は、協力医療機関との連携により、入居者様にとって最良の支援に努めます。また、ご家族とのコミュニケーションも密に行うように努めます。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>		<p>個々の思いや希望が、もっと自然に表出されるような雰囲気作りに努めます。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	出来るだけ望みがかなえられるように努めています。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々の利用者様のサイクルを模索し、可能な限り個々の最良の間隔に合わせて、気持ちの良い排泄が出来るように支援しています。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	一人ずつの入浴を基本として、ご家庭と同じ様にゆったり、のんびりできるように支援しています。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個々の状況や希望に合わせて支援しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	それぞれの特技や趣味に合わせ、日常生活での作業、又はレクに参加して頂くように支援しています。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	意識レベルの違いによって、自己管理又は家族管理で行っています。自己管理の方に対しては、常に一緒に残金確認をさせて頂き、金銭管理に対して安心していただけるように支援しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天候の良い日の散歩や買い物など、戸外に多く出かけられるように支援しています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	毎月、行事等を行い、外食等も行っています。本人の思いをご家族に伝え、連絡を密に取り本人様の思いに沿えるように支援しています。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話や郵便等の希望があった場合は援助しています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族様の許可があれば、どなたでも気軽に訪問していただけるように工夫しています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束はしません。身体拘束のないケアに取り組んでいます。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	ユニットの入り口は24時間施錠はしません。1階の玄関は深夜不審者の侵入防止の為、施錠します。基本的に鍵をかけないケアに取り組んでいます。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者様の所在や様子を把握し、安全に配慮しています。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	危険な物(薬、洗剤等)は、施錠の出来る場所に保管をするなど保管場所の工夫をしています。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハット等些細なことでも報告をして、全員に周知することで再発を防ぎ、大きな自己の防止に努めています。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急マニュアルを作成し、会議等で職員全員に周知するとともに、消防署開催の救命講習も全員受けています。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練の際、町内会にお願いして回覧版をまわして頂き、近隣の方にも参加を呼びかけています。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	家族には細かく説明しながら、抑圧感のない生活が出来るようにすすめています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	常に職員は、各利用者様の体調変化や異変の発見に努め、発見した際は管理者に報告し、その後、全員に周知するように努めています。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人ひとりの処方箋や診断書など、職員全員が周知するようにし、それぞれの特徴を踏まえて、服薬の支援や症状の変化の確認に努めています。		随時、処方が変更になるので、職員全員が常に薬の目的、副作用等を把握するように徹底していきます。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	会議等で職員に便秘についての講習をするとともに、必要に応じて便秘の原因や対策などOJTを行っています。また、起床時の冷水、便秘予防体操、水分量の調整、医師からの下剤の調整などいろいろと取り組んでいます。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	生活習慣もあるので、全ての入居者様が毎食必ずではないが、本人の希望に沿って清潔に保てるように支援ならびに介助しています。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	協力医、地域の栄養士及び看護師とも協力しつつ、支援に努めています。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染マニュアルを作成しており、それに従って実行しています。		感染経路を断つように、衛生管理・食品管理等を徹底します。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	消毒・清掃等は徹底して行っており、食材に関しても食中毒が起きないように品質管理を徹底して行っています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関前を広く開放しており、プランコや花を飾ったテーブル・ベンチなどを配置して、親しみやすい環境作りに努めています。		玄関自体、重量感があるので明るいさわやかな飾りなどを施して、入りやすい工夫をするように努めます。
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	特にホーム入り口のガラス面に季節ごとに飾り付けをして、季節感を取り入れたり、新鮮さを提供して居心地よく過ごせるようにしています。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	大勢で過ごせるソファ、2～3人で座れるソファ、一人用の籐製の椅子、カウンター席のように、一箇所に集中せず、バラエティーのある空間を用意しています。		
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室内のものは、なるべく馴染みのあるものを持って来て頂き、安心して過ごせるようにしています。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	居間及び各居室に換気扇が設備されており、常に換気するようにして嫌なおいなどがこもらないようにしています。また、各居室にも暖房器具が設置されていて、独自に温度調節も出来るようになっていきます。換気・温度調節において細かに支援するように努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		

サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある <input type="radio"/> 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています <input type="radio"/> ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている <input type="radio"/> ほぼ毎日のように 数日に1回程度 <input type="radio"/> たまに ほとんどない

サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> 大いに増えている <input checked="" type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/> ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)